

第15回事例検討会拡大大会

昨年度までは「看護部」が主体となり、年4回多職種を交えた検討会を行っていましたが、今年度からは教育委員会との共同企画となり、毎月の多職種事例検討会を予定しています。コロナ禍のため、感染対策を十分におこないながら、計18名の多職種が集まり久々の多職種事例検討会を開催することができました。

終末期の患者の事例に対して、苦痛緩和のために何ができるか検討しました。参加した社会福祉士からは「入院前から代理意思決定者からの本人の意思確認ができていると入院後スムーズに治療方針が決定できるのではないか」薬剤師からは「この抗生剤であれば他の投与方法の選択も可能である」など専門性を活かした発言が多く、多職種で情報を共有するからこそ、患者・家族にとっての最善の医療に近づけるのだと再認識できる会となりました。久々の検討会ではありましたが、今まで以上に「多職種連携」という言葉が飛び交っており、それぞれの現場でも普段から意識して取り組まれていることが実感できました。今回の学びをしっかりと現場に還元し、日々の実践に活かしていきたいと思えます。

